

2022年3月期 第1四半期 連結決算概況と通期業績見通し

オリンパス株式会社 | 執行役 CFO 武田 睦史 | 2021年8月5日

(スライド1)

- CFOの武田でございます。
- ご多忙の中、オリンパス株式会社「2022年3月期 第1四半期 決算説明会」にご参加いただき誠に有難うございます。
- まず、私から2022年3月期 第1四半期の連結決算概況、および通期業績見通しについて、ご説明申し上げます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ハイライト

第1四半期実績

- ✓ 売上高： 市場の回復により、医療分野が牽引し、連結で+40%と大幅な成長
FY2020比でもプラス成長となり、パンデミック前を大きく上回る水準
- ✓ 営業利益： 売上回復を主要因に、第1四半期として額・率ともに過去最高*

通期業績見通し

- ✓ 市場環境の回復を受けて、売上・利益ともに上方修正
- ✓ 売上高： 全社でパンデミック前を超える水準、医療分野は過去最高となる見込み
- ✓ 営業利益： 額は1,400億円、率は約17%となり、ともに過去最高を見込む
- ✓ 当期利益**：過去最高の1,010億円となる見通し

*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から

**親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS

(スライド3)

- スライド3ページをご覧ください。
- 2022年3月期 第1四半期の連結業績における主なポイントです。
- まずは売上高です。
- 市場の回復を受け、医療分野が牽引し、+40%と大幅な成長となりました。
- 2020年3月期と比較しても、11%のプラス成長となり、パンデミック前を大きく上回る水準を確保しました。
- 売上増に加え、販管費の適正化を継続し、営業利益率は14.4%となりました。第1四半期として額・率ともに過去最高です。
- 続いて通期業績見通しです。
- 第1四半期の実績や市場環境の回復などを踏まえ見直しを行い、売上・営業利益など上方修正しました。2021年3月期比で売上14%の成長、営業利益率は5.7ポイント改善の約17%となる見通しです。

01

2022年3月期 第1四半期 連結業績および事業概況

(スライド4)

- それでは、2022年3月期 第1四半期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。

2022年3月期 第1四半期実績 ①連結業績概況

- 1 売上高： 市場回復を受けて、医療分野が牽引し、連結で+40%の成長。FY2020（パンデミック前）と比較しても大幅な成長
- 2 営業利益： Transform Olympusを始めとした施策を実行しながらも増収により、第1四半期では額・率ともに過去最高*

第1四半期実績（4-6月）

(単位：億円)	2021年3月期	2022年3月期	FY2021比	為替影響調整後 FY2021比	FY2020比	為替影響調整後 FY2020比
売上高	1,367	1 1,915	+40%	+32%	+11%	+9%
売上総利益 (売上総利益率)	853 (62.4%)	1,233 (64.4%)	+45%	+39%	+10%	+9%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	803 (58.8%)	958 (50.0%)	+19%	+14%	0%	▲2%
その他の収益および費用等	▲12	1	-	-	-	-
営業利益 (営業利益率)	37 (2.7%)	2 276 (14.4%)	+645%	+633%	+67%	+72%
税引前利益 (税引前利益率)	27 (2.0%)	270 (14.1%)	+900%			
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	▲27 (-)	187 (9.8%)	+214億円			
EPS	▲2円	15円				
円/USドル	108円	109円				
円/Euro	118円	132円				
円/CNY	15円	17円				

*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から

(スライド5)

- スライド5ページをご覧ください。
- 連結売上高は、1,915億円です。
- 市場の回復を受け、医療分野を中心とした全事業で売上が増加し、+40%の成長となりました。
- 2020年3月期と比較しても+11%となり、パンデミック前を上回る水準となりました。
- 売上総利益は1,233億円、売上総利益率は2ポイントの改善です。増収を主な要因として、工場の操業度が改善したことも寄与しています。
- 販管費は、958億円、販管費比率は8.8ポイントの改善です。販売活動の制限緩和や運営基盤強化及び収益性改善に向けた施策もあり、額としては増加しましたが、売上増も大きく寄与し、率としては50%に抑えています。
- 営業利益は276億円、営業利益率は11.7ポイント改善し14.4%でした。
- 四半期報告書の開示を2009年3月期から行っていますが、第1四半期としては額・率ともに過去最高となりました。
- 当期利益は、187億円と、前年同期比で214億円増加しました。

各事業の構成：サブセグメント

FY2022より、事業の状況をより適切にご理解いただくため、サブセグメント毎の情報を追加

内視鏡事業

消化器内視鏡



消化器内視鏡システム

外科内視鏡



外科内視鏡システム

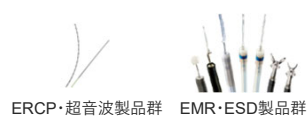
医療サービス



修理サービス

治療機器事業

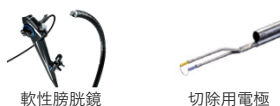
消化器科
(処置具)



ERCP・超音波製品群

EMR・ESD製品群

泌尿器科



軟性膀胱鏡

切除用電極

呼吸器科



気管支鏡

ディスポーザブル吸引生検針

その他の
治療領域



エネルギーデバイス

耳鼻咽喉科製品

科学事業

ライフサイエンス



生物顕微鏡

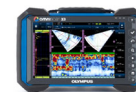
産業



産業用顕微鏡



産業用内視鏡



非破壊検査機器



蛍光X線分析計

(スライド6)

- スライド6ページをご覧ください。
- 皆様に事業の状況をより深くご理解いただくため、前期からプロダクトパイプラインなど決算における開示情報を拡充しております。
- これまで内視鏡事業、治療機器事業を中心に事業毎の成長率や定性情報を紹介しておりましたが、今期から3つの事業について、サブセグメント毎に分けて情報を追加します。
- また、当期から内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡は、呼吸器科分野の事業強化を目的として、治療機器事業の呼吸器科に移管することといたしました。
- 比較可能なように、前期の実績も同様の組替えを行っています。

2022年3月期 第1四半期実績 ②内視鏡事業



内視鏡事業全体

単位: 億円	FY2021				FY2022	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q-4Q	1Q
売上高	743	970	1,054	1,170	3,937	1,000
営業利益	124	299	316	249	988	227
その他の損益*	▲4	▲2	▲8	▲46	▲59	▲22
営業利益率 (為替影響調整後)	16.7%	30.8%	30.0%	21.2%	25.1%	22.7% (23.7%)

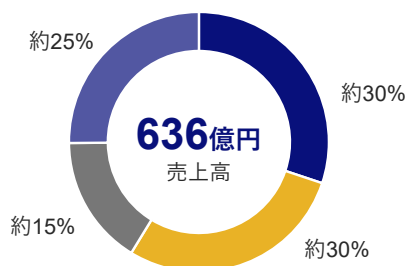
*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値/ **FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。FY2021の実績も同様の組替えを行っています。

FY2022 vs FY2021 1Q成長率	円ベース	為替影響調整後	
■ 消化器内視鏡	47%	38%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響からの回復により、全ての地域でプラス成長。特に日本、欧州、北米の売上が増加。「EVIS X1」を含む消化器内視鏡システム、上部消化管用、下部消化管用スコープも売上の増加に寄与
■ 外科内視鏡	34%	28%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響からの回復により、大幅なプラス成長。外科内視鏡システム「VISERA ELITE II」が好調に推移した日本と北米で売上が増加
■ 医療サービス	19%	11%	<ul style="list-style-type: none"> 保守サービスを含むサービス契約の安定的な売上加え、前年同期に新型コロナウイルスの影響を大きく受けたため、全ての地域で修理件数が増加
合計	35%	27%	(参考値：社内管理ベース) FY2020比 9%成長

(スライド7)

- スライド7ページをご覧ください。
- 各セグメントの概況について、ご説明いたします。
- まず内視鏡事業です。売上高は1,000億円、35%のプラス成長でした。
- 新型コロナウイルスの影響が最も大きく見られた前年同期と比較して、今期は市場環境が回復しており、全てのサブセグメントで大幅な売上成長を実現しています。
- 先ほどご説明した情報開示区分の変更に伴い、内視鏡事業および治療機器事業の2020年3月期の組替後の数字がございませんので、社内管理の参考数値となりますが、2020年3月期と比較しても+9%のプラス成長と、パンデミック前を上回る水準となりました。
- 消化器内視鏡では、全ての地域でプラス成長となり、特に日本と欧州、北米の売上が顕著に増加しました。
- 製品別では、「EVIS X1」を含む消化器内視鏡システムや、上部消化管用、下部消化管用スコープなど、各種スコープの売上が増加に寄与しています。
- 外科内視鏡は、外科手術用内視鏡システム「VISERA ELITE II」の販売が好調に推移しました。日本に加え、北米においても「VISERA ELITE II」への切り替えが進み、売上が増加しました。
- 医療サービスは、保守サービスを含むサービス契約の安定的な売上加え、新型コロナウイルスの影響からの回復により、前年同期比で全ての地域で修理件数が増加しました。
- 営業利益は227億円、営業利益率は22.7%でした。
- 販売活動の制限緩和による費用の増加や、その他の費用で欧州の持分法適用会社への持分法投資に関する減損損失17億円等がありましたが、大きく売上を伸ばしながら、費用の統制を並行して進めたことで、営業利益率は大幅に改善しました。

2022年3月期 第1四半期実績 ③治療機器事業



治療機器事業全体

単位: 億円	FY2021				FY2022	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q-4Q	1Q
売上高	430	587	623	679	2,318	636
営業利益	37	63	132	74	306	141
その他の損益*	▲3	▲1	▲3	▲22	▲30	25
営業利益率 (為替影響調整後)	8.5%	10.7%	21.3%	10.9%	13.2%	22.1% (23.1%)

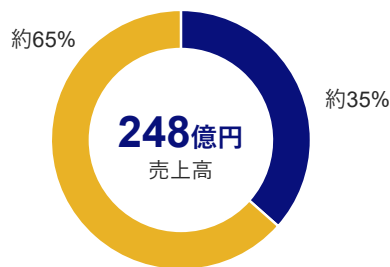
*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値/〃FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。FY2021の実績も同様の組替えを行っています。

FY2022 vs FY2021 1Q成長率	円ベース	為替影響調整後	
■ 消化器科 (処置具)	40%	32%	■ 症例数が回復傾向にあり、全ての地域・製品群でプラス成長。特にワクチン接種が進み、症例数が増加している北米で好調に推移。特にサンプリング (生検鉗子等)、ESD・EMR用の製品群の売上が拡大
■ 泌尿器科	69%	60%	■ 症例数が回復傾向にある北米と欧州を中心に大幅なプラス成長。BPH用の切除用電極と尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の拡販が奏功した北米が好調に推移
■ 呼吸器科	42%	33%	■ 新型コロナウイルスの影響からの回復に加え、Veran Medical Technologies社の売上、EBUS-TBNA(超音波気管支鏡ガイド下針生検)で主に使われる処置具や気管支鏡 (超音波気管支鏡の新製品を含む) 等が好調に推移した北米で大幅な成長
■ その他の治療領域	43%	34%	■ エネルギーデバイス、耳鼻科、婦人科で好調に推移。「THUNDERBEAT」と耳鼻咽喉科向け内視鏡の売上が寄与
合計	48%	40%	(参考値: 社内管理ベース) FY2020比 8%成長

(スライド8)

- スライド8ページをご覧ください。
- 治療機器事業です。売上高は636億円、48%のプラス成長でした。
- 前年同期は新型コロナウイルスの影響により症例数が大幅に減少しましたが、今期は症例数も回復傾向であり、全ての分野で大幅なプラス成長となりました。
- 社内管理の参考数値では、2020年3月期と比較しても+8%のプラス成長と、パンデミック前を上回る水準となりました。
- 消化器科処置具では、症例数が回復しており、全ての地域・製品群でプラス成長となりました。特に、ワクチン接種が進み、症例数が増加している北米で好調に推移しました。スクリーニング検査における組織採取に用いられる生検鉗子等のサンプリングや、病変の切除に使用されるESD(Endoscopic Submucosal Dissection/内視鏡的粘膜下層剥離術)・EMR(Endoscopic Mucosal Resection/内視鏡的粘膜切除術)用の製品群が売上を拡大しました。
- 泌尿器科では、症例数が回復している北米と欧州を中心に大幅なプラス成長となりました。
- 特に症例数がパンデミック前の水準に回復してきている北米で好調に推移し、BPH (Benign Prostatic Hyperplasia/前立腺肥大症) 用の切除用電極と尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の拡販が奏功しました。
- 呼吸器科では、新型コロナウイルスの影響からの回復、Veran Medical Technologies社の売上も加わったほか、EBUS-TBNA(Endobronchial ultrasound-guided Transbronchial Needle Aspiration/超音波気管支鏡下針生検)で主に使われる処置具や気管支鏡等が好調に推移した北米で大幅な成長となりました。
- その他の治療領域では、エネルギーデバイス、婦人科、耳鼻科が好調に推移しました。特に、サージカルティシューマネージメントシステム「THUNDERBEAT (サンダービート)」と耳鼻咽喉科向け内視鏡の売上が寄与しています。
- 営業利益は141億円、営業利益率は22.1%でした。販売活動の制限緩和による費用の増加等がありましたが、大きく売上を伸ばしながらも費用の統制を並行して進めたことや、その他収益でMedi-Tate社の段階取得に係る差益28億円もあり、営業利益率は大幅な増益となりました。

2022年3月期 第1四半期実績 ④科学事業



科学事業全体

単位: 億円	FY2021				FY2022	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q-4Q	1Q
売上高	178	226	266	289	959	248
営業利益	▲16	18	27	20	49	19
その他の損益*	▲3	3	0	▲13	▲12	▲2
営業利益率 (為替影響調整後)	-	8.1%	10.3%	6.9%	5.2%	7.5% (8.1%)

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

FY2022 vs FY2021 1Q成長率	円ベース	為替影響調整後	
■ ライフサイエンス	29%	22%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響からの回復に加え、研究所、大学での予算執行が進んだことにより、全ての地域でプラス成長。販売活動の制限緩和が進み、市場環境の回復が顕著な北米で、生物顕微鏡の拡販等が寄与
■ 産業	47%	39%	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な市況回復に伴い、設備投資状況に改善が見られ、全ての分野でプラス成長。特に中国で、5G関連の電子部品や半導体市場が活発であることから工業用顕微鏡が好調に推移。市場環境に回復傾向が見られる非破壊検査機器も売上増加に寄与。高値の金市場と好調な貴金属等のリサイクル市場が追い風となり、蛍光X線分析計の売上も好調に推移
合計	40%	32%	(参考値：社内管理ベース) FY2020比 8%成長

(スライド9)

- スライド9ページをご覧ください。
- 続いて科学事業です。売上高は248億円、40%のプラス成長でした。
- 社内管理の参考数値では、2020年3月期と比較しても+8%のプラス成長と、パンデミック前を上回る水準となりました。
- ライフサイエンス分野では、新型コロナウイルスの影響からの回復に加え、研究所、大学での予算執行が進んだことにより、全ての地域でプラス成長を実現しました。
- 特に、販売活動の制限緩和が進み、市場環境の回復が顕著な北米で生物顕微鏡の拡販等が寄与しました。
- 産業分野では、全体的な市況回復に伴い、設備投資状況に改善が見られ、全ての分野でプラス成長を実現しました。
- 中国で、5G関連の電子部品や半導体市場が活発であることから工業用顕微鏡が好調に推移したことに加え、市場環境に回復が見られる非破壊検査機器も売上増加に寄与しました。高値の金市場と好調な貴金属等のリサイクル市場が追い風となり、蛍光X線分析計も好調に推移しています。
- 営業利益は19億円、営業利益率は7.5%でした。
- 売上の回復を主要因として、工場の操業度の改善も寄与し、前年の営業損失から大幅な改善となりました。

財政状態計算書

- ☑ Medi-Tate社の買収等により、のれんと無形資産が増加
- ☑ 約7,200万株の自己株式の消却を実施

(単位：億円)	2021年3月末*	2021年6月末	増減額		2021年3月末*	2021年6月末	増減額
流動資産	5,802	5,134	▲668	流動負債	3,284	2,827	▲457
棚卸資産	1,590	1,641	+51	社債及び借入金	315	112	▲203
非流動資産	6,030	6,312	+282	非流動負債	4,593	4,606	+13
有形固定資産	2,390	2,387	▲3	社債及び借入金	3,237	3,239	+1
無形資産・その他	2,366	2,436	+69	資本	3,955	4,014	+59
のれん	1,274	1,489	+216	自己資本比率	33.3%	35.0%	+1.7pt
資産合計	11,831	11,446	▲385	負債及び資本合計	11,831	11,446	▲385

*2021年3月期に発生したVeran Medical Technologies社、Quest Photonic Devices B.V.社の企業結合について、2022年3月期第一四半期連結累計期間において暫定的な金額の修正を行っています。これに伴い、2021年3月期の数値を遡及して修正しています。

有利子負債：3,351（2021年3月末比▲201）

(スライド10)

- スライド10ページをご覧ください。
- 2021年6月末の財政状態です。
- Medi-Tate社の買収を実施したこと等により、のれんと無形資産が増加しています。
- 有利子負債の減少により、自己資本比率は前期末比で1.7ポイント増加し、35%となりました。
- また、6月に約7,200万株の自己株式の消却を行っています。

連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF： Medi-Tate社の買収による約210億円の支出、社外転進支援制度の引当取り崩しに伴う約90億円の支出を考慮すると、FCFはプラスを確保
- ☑ 財務CF： 借入金の返済や配当金支払により、390億円のマイナス

第1四半期実績（4-6月）

(単位：億円)	2021年3月期	2022年3月期	増減
税引前利益	27	270	+243
営業キャッシュフロー	84	237	+153
投資キャッシュフロー	▲123	▲335	▲212
フリーキャッシュフロー	▲39	▲98	▲59
財務キャッシュフロー	1,118	▲390	▲1,508
現金及び現金同等物期末残高	2,707	1,687	▲1,020

2022年3月期第1四半期（4-6月）の主な一時要因

営業CF：社外転進支援制度の引当取崩	88億円
投資CF：事業・子会社等の取得	213億円

（スライド11）

- スライド11ページをご覧ください。
- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは、237億円、前年同期比プラス182%となりました。業績回復に伴う利益水準の改善による大幅な増加があった一方、社外転進支援制度の引当取り崩しに伴う一過性の支出約90億円等がありました。
- 投資キャッシュフローは、Medi-Tate社の買収による約210億円の支出等により、335億円のマイナス、前年同期から212億円減少となりました。
- フリーキャッシュフローは、一時要因である社外転進支援制度の引当取り崩しに伴う支出、Medi-Tate社の買収による支出を仮に足し戻すと、プラスを確保しています。
- 財務キャッシュフローは、新型コロナウイルスに対応した調達のため、前期に大きく増加していたことを主要因として、借入金の返済や配当金の支払もあり、1,508億円減少、390億円のマイナスとなりました。
- 結果、6月末の現金及び現金同等物残は1,020億円減の1,687億円となりました。

02 2022年3月期 通期業績見通し

(スライド12)

- 次に、2022年3月期の通期業績見通しについてご説明申し上げます。

通期業績見通し ①連結業績

- 1 売上高： 市場環境の回復を受けて上方修正し、パンデミック前のFY2020を超える水準
- 2 営業利益： 額は1,400億円、率は約17%となり、ともに過去最高を見込む
- 3 当期利益*： 過去最高の1,010億円となる見通し

(単位：億円)	2022年3月期 5月7日公表見通し	2022年3月期 最新見通し	増減	前回 見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	FY2021比	FY2020比	2021年3月期 通期実績**	2020年3月期 通期実績**	
売上高	8,060	1	8,300	+240	+3%	+2%	+14%	+10%	7,305	7,552
売上総利益 (売上総利益率)	5,290 (65.6%)	2	5,460 (65.8%)	+170	+3%	+2%	+19%	+13%	4,595 (62.9%)	4,828 (63.9%)
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,000 (49.6%)		4,010 (48.3%)	+10	0%	0%	+12%	+5%	3,570 (48.9%)	3,812 (50.5%)
その他の収益および費用等	▲30		▲50	-	-	-	-	-	▲205	▲94
営業利益 (営業利益率)	1,260 (15.6%)	3	1,400 (16.9%)	+140	+11%	+8%	+71%	+52%	820 (11.2%)	922 (12.2%)
税引前利益 (税引前利益率)	1,210 (15.0%)		1,350 (16.3%)						768 (10.5%)	866 (11.5%)
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	890 (11.0%)		1,010 (12.2%)						657 (9.0%)	606 (8.0%)
EPS	69円		79円						10円	39円

2022年3月期配当
年間配当14円を予定

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
**「売上高」から「税引前利益」まで、継続事業の金額を表示しています。なお、当期利益は「継続事業からの当期利益」を表示しています。

(スライド13)

- スライド13ページをご覧ください。
- 5月にご紹介した2022年3月期の通期業績見通しを第1四半期の実績や市場環境の回復等を踏まえ、修正しました。
- 売上高を240億円、営業利益を140億円等上方修正しました。売上高は8,300億円、前年比で14%の成長、営業利益は1400億円、営業利益率は16.9%、5.7ポイントの改善となる見通しです。
- また当期利益も1,010億円と、いずれも過去最高となる見通しです。
- パンデミック前の2020年3月期との比較では、売上高は10%成長、営業利益は52%の増益、営業利益率も4.7ポイントの改善となります。
- 2022年3月期末の配当は、5月に公表した配当予想を据え置き、14円を予定しております。
- 業績見通しの前提となる想定為替レートは、1ドル108円、1ユーロ130円としております。
- なお、科学事業の分社化について現在検討をしている段階であり、分社化にかかる費用等は今回の見通しには含まれておりません。

通期業績見通し ②セグメント別業績

- 1 内視鏡・治療機器： 売上、営業利益ともに上方修正し、医療分野としてパンデミック前を上回る過去最高となる見込み
- 2 科学： 市場環境の回復を受けて、売上・営業利益ともに上方修正
- 3 全社消去： 販管費の抑制により、改善を見込む

単位：億円		2022年3月期 5月7日公表見通し*	2022年3月期 最新見通し	増減	前回見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	FY2021比	2021年3月期 通期実績
内視鏡	売上高	4,190	1 4,380	+190	+5%	+3%	+11%	3,937
	営業利益	1,120	1,180	+60	+5%	+3%	+19%	988
治療機器	売上高	2,650	1 2,700	+50	+2%	+1%	+16%	2,318
	営業利益	480	520	+40	+8%	+6%	+70%	306
科学	売上高	1,080	2 1,090	+10	+1%	0%	+14%	959
	営業利益	110	130	+20	+18%	+14%	+163%	49
その他	売上高	140	130	▲10	▲7%	▲7%	+41%	92
	営業利益	▲40	▲40	0	0	0	▲33億円	▲7
全社・消去	営業利益	▲410	3 ▲390	+20	+20億円	+19億円	+126億円	▲516
連結合計	売上高	8,060	8,300	+240	+3%	+2%	+14%	7,305
	営業利益	1,260	1,400	+140	+11%	+7%	+71%	820

*FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。5月7日に公表した2022年3月期通期業績見通しにおいても同様の組替えを行っています。

(スライド14)

- スライド14ページをご覧ください。
- セグメント別の業績見通しです。
- 全ての事業について売上・営業利益ともに上方修正します。
- 特に、内視鏡事業と治療機器事業を合わせた医療分野は、パンデミック前の2020年3月期の実績と比較しても、売上高で10%成長、営業利益で25%成長を見込んでおり、売上、営業利益ともに過去最高となる見通しです。
- なお、昨年10月から自主的に出荷を停止していた「EVIS X1」のEDOFスコープにつきまして、7月より出荷を再開いたしました。
- 当初の予定通りの出荷再開となりますので、業績見通しへの大きな影響はございませんが、「EVIS X1」を中心に拡販を進め、修正した見通しの達成を目指します。

03 真のグローバル・メドテックカンパニーに向けて

(スライド15)

- 最後に、真のグローバル・メドテックカンパニーに向けた取り組みについてご説明します。

プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2021年8月5日時点)



経営戦略：内視鏡事業における圧倒的ポジションの強化



リユース内視鏡の競争優位性の堅持
継続的な技術革新と販売力



シングルユース内視鏡によるポートフォリオ
拡充
リユース内視鏡を補完する製品ラインアッ
プの提供

Growth driver now	Just launched / Coming soon	Beyond
消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> EVIS LUCERA ELITE (日本、中国) EVIS EXERA III (米国、欧州) 外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (欧州、日本) VISERA ELITE II 2D (米国) VISERA ELITE (中国) VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国) 	消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> EVIS X1 (欧州、日本) 十二指腸内視鏡 TJF-Q190V (米国) 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (欧州) 外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> VISERA ELITE II 3D/IR機能 (米国) VISERA ELITE II 2D/3D機能 (中国) 	消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> EVIS X1 (米国、中国) EVIS X1 3D機能 シングルユース十二指腸内視鏡 外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> VISERA ELITE II IR機能 (中国) 次世代外科内視鏡システム (欧州、日本)

~6%

内視鏡事業
年平均成長率*

*FY2020を起点に、FY2021からFY2023までのCAGR

(スライド16)

- スライド16ページをご覧ください。
- 内視鏡事業のプロダクトパイプラインです。
- 前期から大きな変更はありませんが、販売活動の制限緩和に加え、EDOFスコープの出荷再開も受け、すでに市場導入済の欧州、日本、アジア一部地域では、「EVIS X1」の拡販を加速してまいります。
- また、「EVIS X1」を発売していない地域においては、早期の市場導入を目指します。
- 外科内視鏡システム「VISERA ELITE II」は、北米で3D/IRシステムの積極的なデモンストレーションを推進することで、拡販を進めてまいります。

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2021年8月5日時点)



経営戦略：治療機器事業への注力と拡大



消化器科

既存の製品領域において製品ラインアップを拡充し、関連する領域での成長拡大



泌尿器科

前立腺肥大の分野で業界をリードしつつ、製品ラインアップを拡充し、結石処置における競争力を向上



呼吸器科

オリンパス製品とVeran Medical社製品でシナジーを創出するとともに、BLVR*市場も拡大することにより、肺がん領域のポートフォリオを拡大し、リーダーシップを強化

Growth driver now

消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科

- 前立腺肥大症治療用切除デバイス

呼吸器科***

- 超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイロレーションバルブシステム

Just launched / Coming soon

消化器科

- 5製品 (米国)
- 6製品 (欧州)
- 6製品 (日本)
- 3製品 (中国)

泌尿器科

- 前立腺肥大症低侵襲治療デバイス iTind (米国、欧州)
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州)

呼吸器科***

- 電磁ナビゲーションシステム (米国)
- シングルユース気管支鏡 (米国)
- 超音波気管支鏡 (米国)

Beyond

消化器科

- シングルユース胆道鏡

泌尿器科

- シングルユース尿管鏡

呼吸器科***

- 電磁ナビゲーションシステム (欧州)
- EVIS X1 気管支鏡 (米国)
- シングルユース気管支鏡

~8%

治療機器事業
年平均成長率**

*Bronchoscopic Lung Volume Reduction **FY2020を起点に、FY2021からFY2023までのCAGR ***FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。

Page 17

OLYMPUS

(スライド17)

- スライド17ページをご覧ください。
- 次に治療機器事業のパイプラインです。
- 消化器科処置具は、自社開発製品、外部買入れ品等を含めて、着実に製品ラインナップを拡充し、成長を図っていきます。
- 泌尿器科は、治療機器事業の実績のご説明でも触れましたが、新製品の尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の販売が好調に推移しています。
- グローブドライバーである切除用電極や買収を完了したMedi-Tate社の低侵襲治療デバイス「iTind」等を含めて、前立腺肥大症の処置ソリューションの提供も強化していきます。
- 呼吸器科は、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管したことにより、気管支鏡、超音波気管支鏡等のラインナップがパイプラインに加わっています。
- オリンパスとVeran Medical社間で製品ポートフォリオのシナジーを創出し、肺がんポートフォリオの拡大を目指します。

FY2022

グローバル・メドテックカンパニーとしての深化



医療ビジネスにおける
収益性の高い成長戦略の
深化



Transform Olympusによる
企業体質の更なる改善
および基盤強化



今後の成長を牽引する
製品開発への
着実な投資継続



サステナブルな社会に資する
ESGへの取り組み

科学事業の分社化の検討開始 Global Business Servicesの推進

(スライド18)

- スライド18ページをご覧ください。
- 今期は「グローバル・メドテックカンパニーとしての深化」をテーマに掲げ、昨年に行った企業変革の継続と定着に取り組んでいます。
- 科学事業の分社化に向けた検討の開始、各地域におけるGlobal Business Servicesの推進や、Medi-Tate社の子会社化など、グローバル・メドテックカンパニーへと飛躍するために施策を着実に押し進めています。
- GBSにつきましては、中国の大連に「Olympus Asia Pacific Business Management Services (Dalian) Co., Ltd」を開設し、日本、中国、アジア一部地域の間接・支援業務の一部の集約化、移管を開始しました。
- 今後も取り組みを推進し、グローバルに展開していく予定です。

Upcoming Investor Events

OLYMPUS

INVESTOR DAY 2021

日程: 2021年12月7日

登壇者: 竹内 康雄、ナチョ・アビア

Q&A: CEO・COO・CTO・
CFO・CAO



(スライド19)

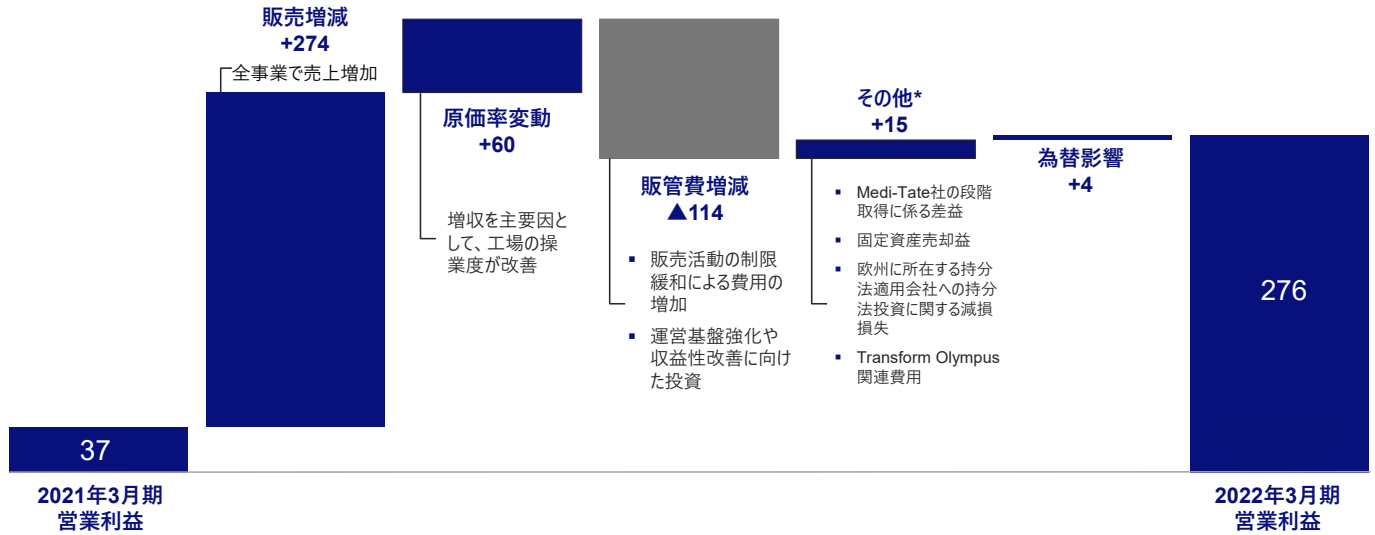
- スライド19ページをご覧ください。
- 本年は3年振りに、Investor Day 2021を開催予定ですが、12月7日に開催する運びとなりました。
- 内容や参加方法等の詳細につきましては、決まり次第、改めてお知らせいたします。ぜひご参加ください。
- 私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

OLYMPUS

参考資料

2022年3月期 第1四半期実績 ①連結営業利益増減要因

第1四半期実績（4-6月）



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています。

2022年3月期 第1四半期実績 セグメント別概況

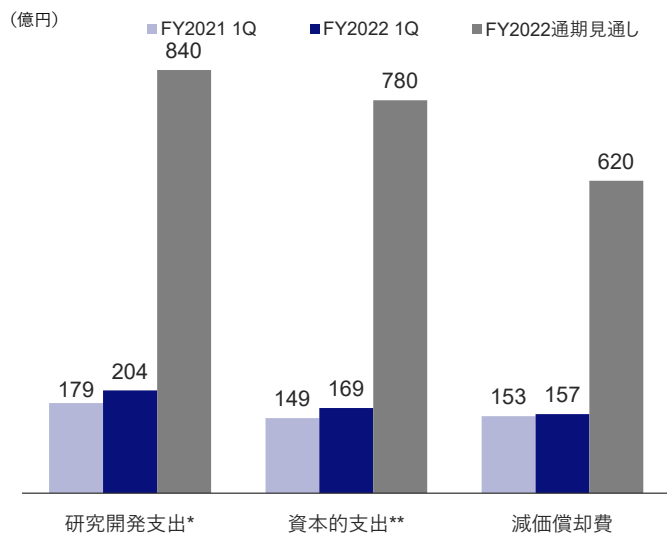
第1四半期実績（4-6月）

単位：億円		2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	743	1,000	+35%	+27%
	営業利益	124	227	+82%	+80%
治療機器	売上高	430	636	+48%	+40%
	営業利益	37	141	+284%	+278%
科学	売上高	178	248	+40%	+32%
	営業利益	▲16	19	+35億円	+35億円
その他	売上高	16	30	+90%	+83%
	営業損益	▲5	▲6	0億円	0億円
全社・消去	営業損益	▲102	▲104	▲2億円	▲1億円
連結合計	売上高	1,367	1,915	+40%	+32%
	営業利益	37	276	+645%	+633%

*FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。FY2021の実績も同様の組替えを行っています。

投資等

第1四半期実績（4-6月）および通期見通し



(単位：億円)	FY2021	FY2022
研究開発支出* (a)	179	204
開発費資産化 (b)	34	38
損益計算書上における研究開発費 (a-b)	145	166

(単位：億円)	FY2021	FY2022
償却費	20	22
	2021年3月末	2021年6月末
開発資産残高	562	580

*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。／**資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。
(FY2021 1Q：43億円、FY2022 1Q：38億円、FY2022通期見通し：100億円)